スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。
またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- **「必読！安全運転のために」**および次のシンボルマークで示したところは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠警 告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
⚠注 意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注 記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

◇ お車の正しい取扱い方法
◇ 日常点検、定期点検
◇ 保証内容と保証期間
◇ 保証書の発行 《保証書登録票の記入・捺印》

- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。ご了承ください。

☆ この車は、平成19年排出ガス規制適合車です。

もくじ

必読！安全運転のために	運転の前に.....2	運転中は.....5	車の整備など.....7
取扱いの方法	各部の名称.....10 メータの見かた.....12 スイッチの使いかた.....17 ハンドルロック.....21 シート.....22	ヘルメットホルダ.....23 小物入れ （書類入れ、サービス工具）....23 ガソリンの給油.....24 ブレーキレバー.....25	ブレーキペダル.....26 チェンジペダル.....26 リヤショックアブソーバ.....26
正しい運転操作	エンジンのかけかた.....28	走りかた.....30	ブレーキの使いかた.....31
お車の点検	日常点検、定期点検.....32	日常点検項目.....33	
簡単な整備	簡単な整備.....34 ブレーキ.....34 クラッチ.....37 スロットルケーブル.....38	エンジンオイル.....39 冷却水.....41 エアクリーナ.....43 ヒューズ.....44	バッテリ.....46 タイヤ.....48
お車の手入れ	洗車.....52 つや消し塗装.....53 アルミホイール.....53	エキゾーストパイプ.....53 スロットルケーブルブーツ....54 保管のしかた.....54	環境を保護するために.....55
サービスデータ	主要諸元.....56	サービスデータ.....57	車台番号.....57

必読！安全運転のために

運転の前に

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

車の購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、なれるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

重要な事項を書いたラベルが車に貼られています。これらの注意をいつもお守りください。

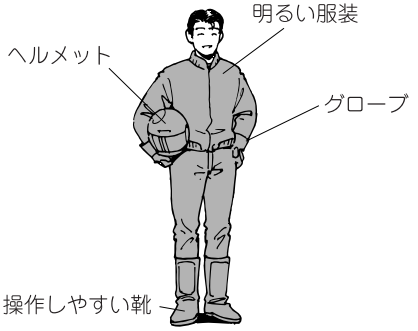


◇転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。

◇取扱説明書をよくお読みください。

■ 安全な運転は正しい服装から

- ヘルメットを必ず着用してください。頭にしっくり合ったS、S GまたはJI Sマークのある二輪車用ヘルメットをかぶり、あごひもをしっかり締めましょう。
- ヘルメットシールドまたはゴーグルを使用してください。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用してください。万一のとき身体への衝撃を軽減します。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどは運転操作の邪魔になります。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。



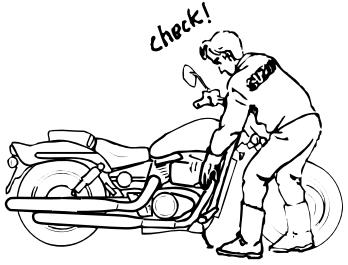
⚠警 告

- **ヘルメットを正しくかぶってください。正しくかぶらないと事故の際重大な傷害を負う可能性が高くなります。**
- **運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり正しい服装で乗車してください。**

うしろの席に乗る人は、背丈の長いジャケットやコートを着用しないでください。テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されて、後続の車に見落とされるおそれがあります。
やむを得ず着用する場合は、ジャケットやコートのすそをお尻の下に敷くなどして、テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されないようにしてください。

■ 点検整備をしましょう

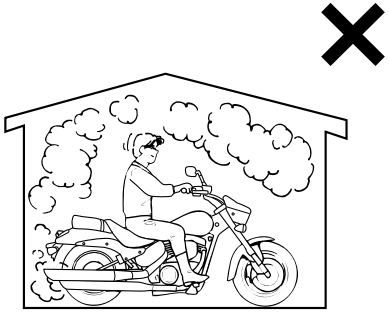
事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。
いつもと違う音やにおいがした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。



運転の前に

■ エンジンをかけるときは

風通しのよい場所でエンジンをかけてください。

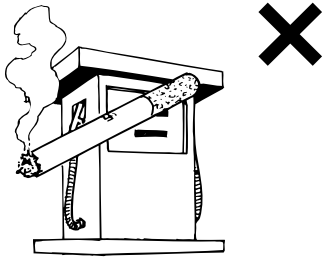


⚠警 告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

■ 給油するときは

ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。

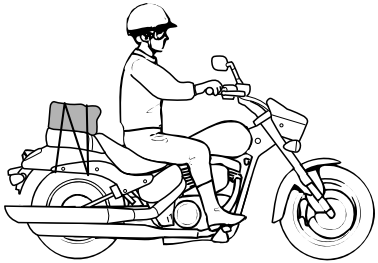


■ 乗車定員は2名

二人乗りでは通行できない道路区分もあります。また、二人乗りは年令や経験年数の制限もあります。二人乗りに関する条件や交通規制をしっかり守り、マナーのよい運転を心がけましょう。

■ 荷物

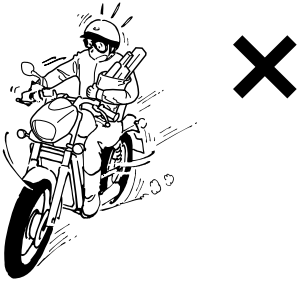
- 荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。
- 荷物はゴムバンドなどでしっかり固定してください。

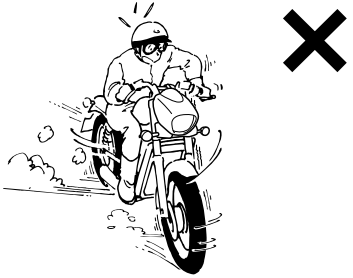


運転中は

■ 乗りかた

- 運転中は両手でハンドルを握り、足をフットレストに置いてください。同乗者には両手で身体をしっかり固定させ、足は後席用フットレストに乗せさせてください。
- 急激なハンドル操作や片手運転は絶対にしないでください。横すべりや転倒の原因となります。

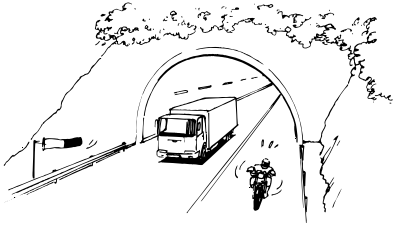




運転中は

■ 風が強い日は

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。
スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。



■ 雨の日、雪の日は

- 路面がすべりやすいので急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。
- ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。

■ 駐車するとき

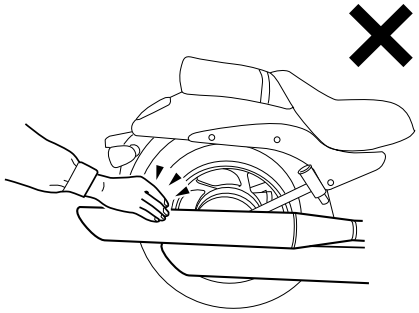
車から離れるときは、盗難抑止のため必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。
☞21ページの「ハンドルロック」参照

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平らな場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けてください。
- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこな所、やわらかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分注意してください。

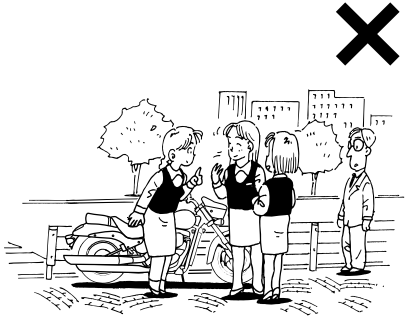
⚠注 意

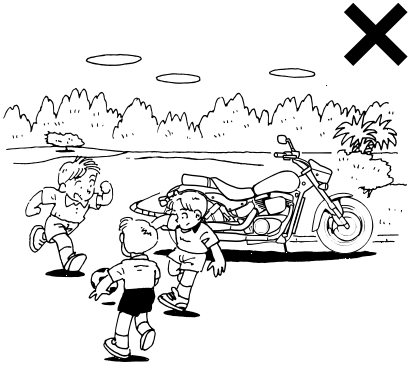
エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

● エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどに触れないでください。



● 他の人がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。



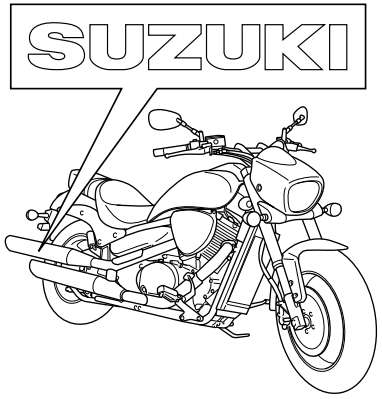


車の整備など

■ 不正改造はやめましょう

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。
車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

● マフラには、スズキ純正部品を表す“SUZUKI”マークが刻印されています。



車の整備など

- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。純正部品には下記の表示があります。

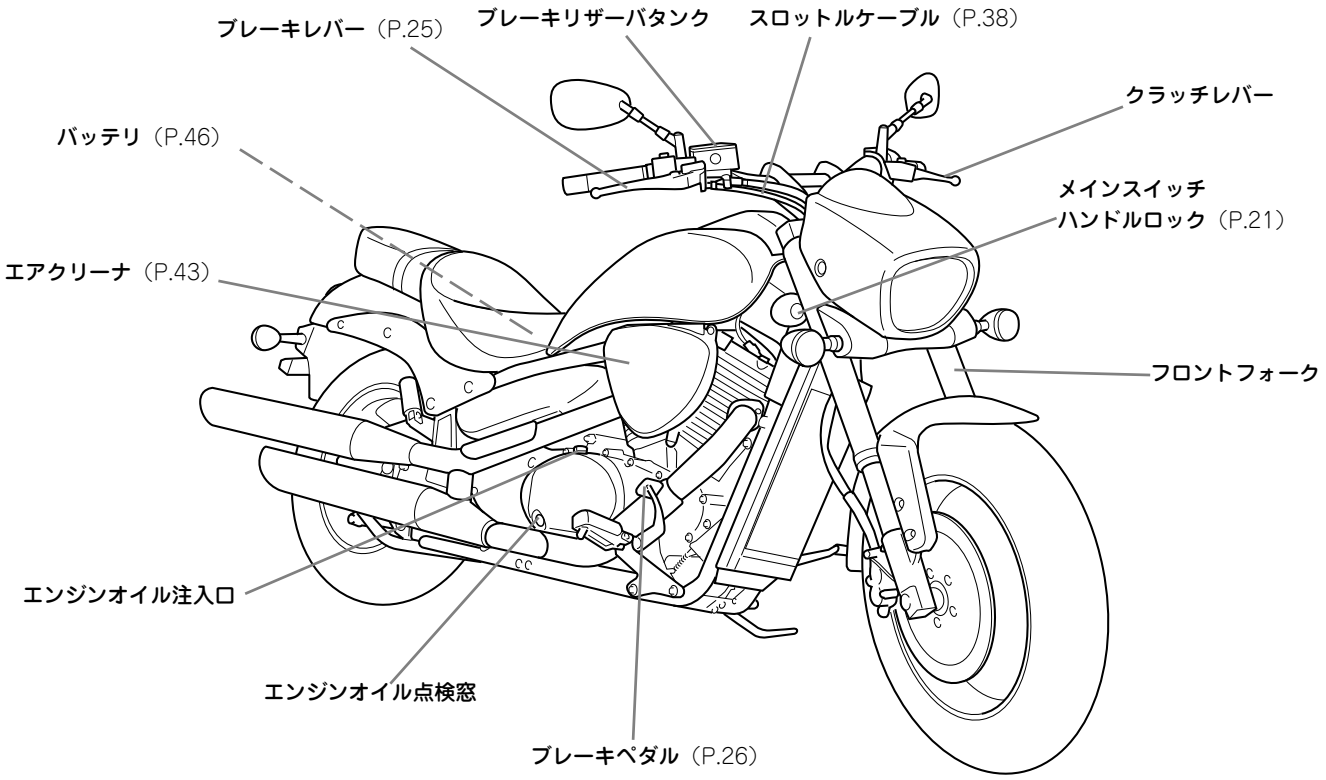


- この車は、排出ガス規制適合車です。
  マフラには排気ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。
  マフラを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、マフラを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。

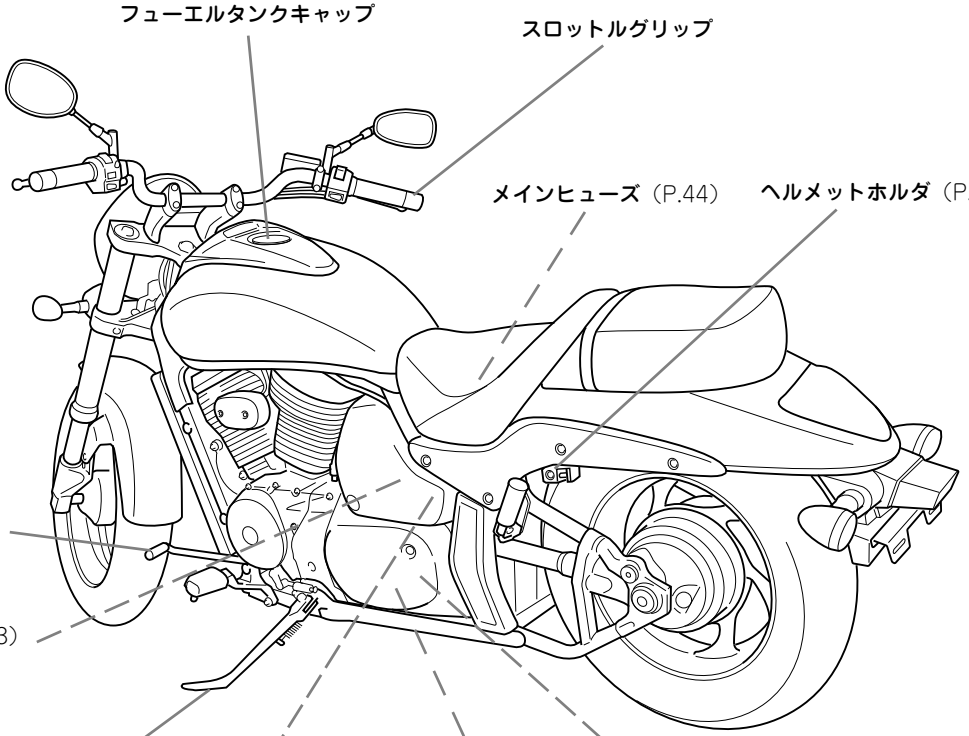
メ モ

取扱いの方法

各部の名称

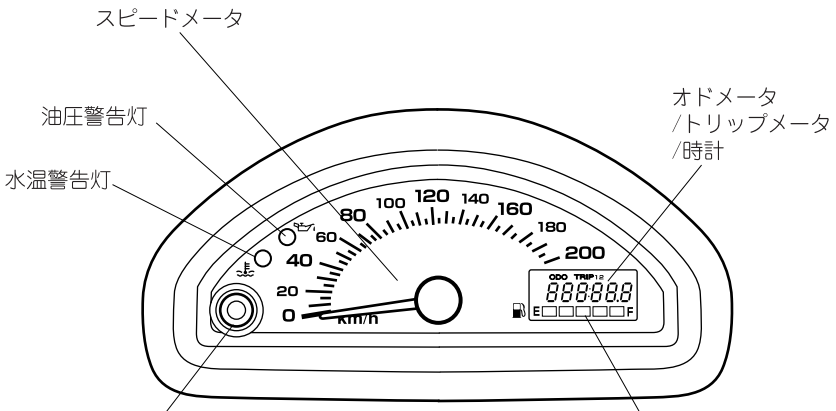


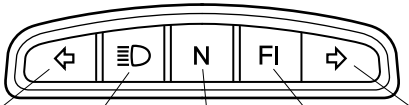
－－－部は見えない部分を示します。



―――部は見えない部分を示します。

メータの見かた

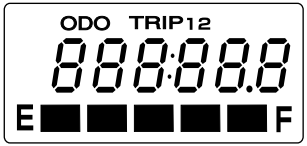




ターンシグナル インジケータ　ハイビーム インジケータ　ニュートラル インジケータ　FI警告灯　ターンシグナル インジケータ

メインスイッチを**ON**にすると

- スピードメータの指針が最大まで振れて“0”に戻ります。
- FI警告灯が3秒間点灯します。
- 水温、油圧警告灯が点灯します。
- 全液晶ディスプレイセグメント表示(チェックパターン表示)を行います。



⚠警 告

走行中にスイッチ操作を行なうと危険です。停止中に操作してください。

■ スピードメータ

車の走行速度をkm/hの単位で示します。

＜指針の補正＞

指針が0に戻らない場合、補正することができます。

1. セレクトスイッチを押したまま、メインスイッチを**ON**にします。
2. セレクトスイッチを３～５秒間押し続けます。
3. セレクトスイッチを放し、１秒以内にセレクトスイッチを2回押します。

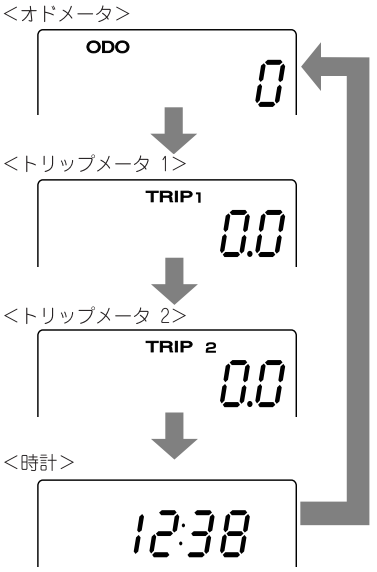
アドバイス

1～3の操作を10秒以内に行ってください。

■ オドメータ/トリップメータ/時計

メインスイッチを**ON**にするとチェックパターンを3秒表示後、オドメータもしくはトリップメータ１または2、あるいは時計を表示します。

- セレクトスイッチを押すと右図のように切り換わります。
- メインスイッチを **OFF** にしても設定は記憶されます。



メータの見かた

＜オドメータ＞

- 走行した総距離をkmの単位で示します。
- オイル交換や定期点検の目安となります。
- オドメータの表示範囲は、0～999999kmです。999999を超えると、オドメータは999999kmを表示し続けます。

＜トリップメータ1、2＞

- リセットし“0.0”に戻してからの走行距離を示します。
- **TRIP 1, 2** の2つのモードがあります。表示範囲は0.0～9999.9kmです。9999.9を超えると0.0に戻ります。
- アジャストスイッチを約2秒間押すとリセットされ、“0.0”を表示します。リセットされるのは表示している**TRIP1**または**2**だけで、表示していない方はそのままです。

アドバイス

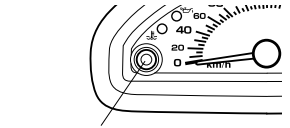
バッテリを外したり放電した場合は、オドメータはデータを記憶していますが、トリップメータは “0”にリセットされます。

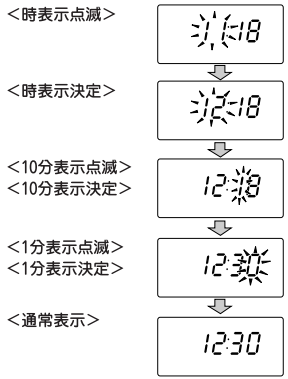
＜時計＞

時刻を表示します。（12時間表示）

調整のしかた

1. メインスイッチを**ON**にし、時計を表示させます。
2. セレクトスイッチを 2 秒以上押すと時刻修正モードに入り、時計表示全体が点滅します。
3. セレクトスイッチを 2 秒未満押すと時桁調整となり時表示が点滅します。
4. セレクトスイッチを 2 秒未満押すことにより時表示を合わせます。
5. セレクトスイッチを 2 秒以上押し続けると時が決定し、10分桁調整となり10分表示が点滅します。
6. セレクトスイッチを 2 秒未満押すことにより10分表示を合わせます。
7. セレクトスイッチを 2 秒以上押し続けると10分が決定し、1分桁調整となり1分表示が点滅します。
8. セレクトスイッチを 2 秒未満押すことにより1分表示を合わせます。
9. セレクトスイッチを2秒以上押し続け、1分が決定し、通常表示に戻ります。



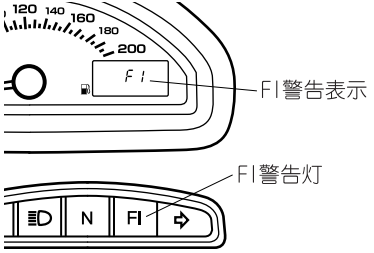


アドバイス

メインスイッチOFFでも、メータには微少電流が流れ、電力を消費しています。長期間（2か月以上）乗らない場合は、バッテリを外しておいてください。
詳細はP.54のアドバイスをご覧ください。

■ FI警告表示

燃料噴射機構に異常が起きると、時計にFIと表示します。同時にFI警告灯が点灯または点滅します。



注 記

- FI警告表示が出たまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。
- FI警告表示が出たら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- ディスプレイ内にFIと点灯表示されFI警告灯が点滅している場合は、始動ができません。
- FI警告表示が点滅していて走行できない場合もあります。
- 次の表示が出た場合、始動できないことがあります。

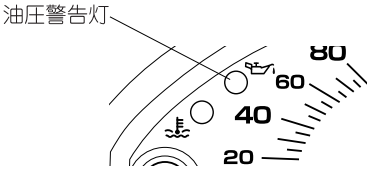
CHEC

以下の点検を行ってください。

- エンジンストップスイッチが〇になっていないか
- チェンジがニュートラル以外でサイドスタンドが出ていないか
- ヒューズが切れていないか
- ワイヤハーネスに異常がないか

CHEC表示が消えないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ 油圧警告灯



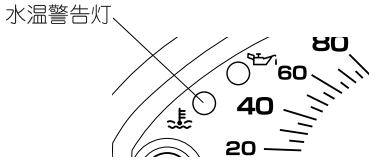
- メインスイッチをONにすると油圧警告灯が点灯し、エンジンが始動すると消灯します。
- 潤滑系統の油圧が低下すると、油圧警告灯が点灯します。

注 記

- 油圧警告灯が点灯したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。
- 油圧警告灯が点灯したらエンジンをとめ、オイル量を点検してください。
- オイル量が正常でも油圧警告灯が点灯する場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

メータの見かた

■ 水温警告灯



冷却水の温度が規定値を超えると水温警告灯が点灯します。

注 記

- **水温警告灯が点灯したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。**
- **水温警告灯が点灯したら、エンジンをとめ、エンジンが冷えてからリザーバタンク内の冷却水量を点検してください。**
- **高温下での長時間にわたるアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、冷えるまでエンジンを停止してください。**

■ FI警告灯 FI

- システムが正常な場合、メインスイッチを**ON**にするとFI警告灯が約3秒間点灯し、その後消灯します。
- 燃料噴射機構に異常が起きると、点灯または点滅します。

注 記

- **FI警告灯が点灯したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。**
- **FI警告灯が点灯したら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。**

■ インジケータ

<ターンシグナル> ⇦⇨

ターンシグナルランプが作動すると点滅します。

<ハイビーム> ≡D

ヘッドランプが上向きのときに点灯します。

<ニュートラル> N

変速ギヤがニュートラル（チェンジが入っていない）のときに点灯します。

■ フューエルメータ ⛽

フューエルタンクのガソリン残量の目安を表示します。

表　示	ガソリン残量
E■■■■■F	満タン
E■■■■□F	・ ・ ・
E■■■□□F	・ ・ ・
E■■□□□F	・ ・ ・
E■□□□□F	約３Ｌ
E□□□□□F	約１Ｌ

■ 点灯　□ 消灯　-■- 点滅を表す

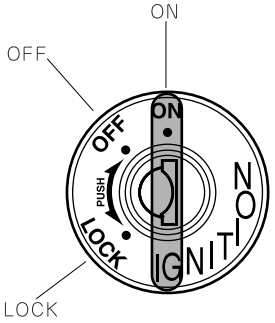
アドバイス

- **表示が点滅したら、すみやかにガソリンを給油してください。**
- **サイドスタンド状態では、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。車体を垂直にした状態で確認してください。**

スイッチの使いかた

■ メインスイッチ

電気回路の**ON**-**OFF**をキーを回して行います。



⚠警 告

- **走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながることがあります。キーは停車後、操作してください。**
- **衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。車両の異常により火災が発生したり、リアホイールなどの回転する部品に巻き込まれる可能性があります。**
  転倒した場合は、すぐにメインスイッチをオフにして、すべての装置を停止させます。転倒したときに、見えない部分に損傷を受けている可能性があるので、スズキ販売店にて点検を受けてください。

ON

- エンジンの始動・走行ができます。
- 次のランプが点灯します。
  [ヘッド、テール、メータ、前側ターンシグナル]
- スイッチ、ランプ類が使えます。
  [ターンシグナル、ホーン、ハザード、スタータ、パッシング]
- キーが抜けません。

OFF

- エンジンが停止します。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

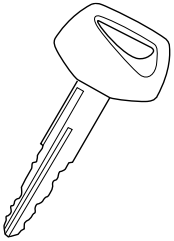
LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

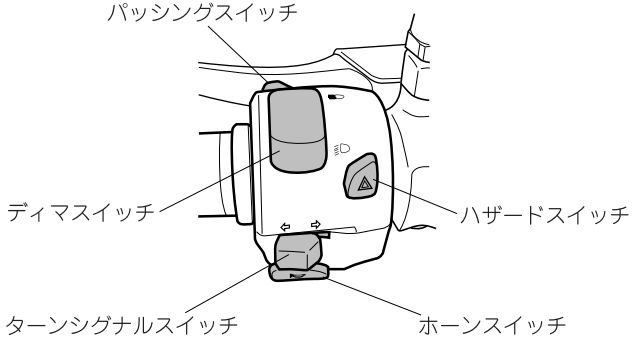
スイッチの使いかた

アドバイス

- **メインスイッチONでヘッドランプなどが点灯するため、エンジンをかけずにONのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは、盗難抑止のためハンドルをロックし、必ずキーを抜いてお持ちください。**
- **キーはメインスイッチ、フューエルタンクキャップなどに共通して使います。**
- **スペアキーは大切に保管してください。**



それぞれのスイッチはメインスイッチが**ON**のとき作動します。



■ ターンシグナルスイッチ

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折

スイッチを⇨側に押すと、右側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

左折

スイッチを⇦側に押すと、左側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

⚠警 告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されません。使用後は、必ずスイッチを前に押して解除してください。点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

アドバイス

ターンシグナルランプの電球（バルブ）に、正規ワット数以外のものを使用するとターンシグナルが正しく作動しません。必ず正規ワット数のものを使用してください。

■ ディマスイッチ

ヘッドランプの向きを切り換えます。

ハイビーム

スイッチを≣D側に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

ロービーム

スイッチを≣D側に押すと、ヘッドランプが下向きになります。

注 記

- **ディマスイッチをハイビームとロービームの中間位置に止めると、ハイビームとロービームの両方が点灯することがあります。このような状態で走行すると、車両に損傷を与えるおそれがあります。**
- **ヘッドライトにはテープ類を貼らないでください。**

アドバイス

対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。

■ ハザードスイッチ

故障などの非常時に、停車するとき使用します。スイッチを押すと、すべてのターンシグナルランプが点滅します。

アドバイス

非常時以外は、使用しないでください。エンジン停止状態での使用は、バッテリあがりの原因となります。

■ ホーンスイッチ

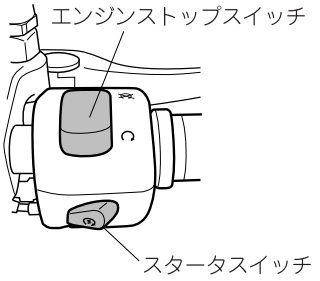
スイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。

■ パッシングスイッチ

追い越しのときなどに、自車の存在を知らせます。スイッチを押すとハイビームが点灯します。ハイビーム点灯中は作動しません。

スイッチの使いかた

それぞれのスイッチはメインスイッチが**ON**のとき作動します。



■ エンジンストップスイッチ

転倒などの非常時に、ただちにエンジンを停止させます。
スイッチを側に押すとエンジンが停止します。通常はにしておきます。

⚠警 告

走行中にエンジンストップスイッチを→→にしないでください。エンジンが円滑に回転しなくなり、走行不安定の原因となります。またエンジンに悪影響を与えます。

アドバイス

エンジンストップスイッチでエンジンを停止したときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。

■ スタータスイッチ

クラッチレバーを握り、スイッチを押すとスタータモータが回転し、エンジンが始動します。サイドスタンドとギアの位置によりエンジンが始動しない場合があります。詳細は P.28<サイドスタンドインタロック>をご覧ください。

アドバイス

- **スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。**
- **エンジンストップスイッチがのときは作動しません。**

ハンドルロック

車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。
チェーンロックなどの併用もおすすめします。

＜かけかた＞

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押しながら **OFF** から **LOCK** まで回します。
3. キーを抜きます。

アドバイス

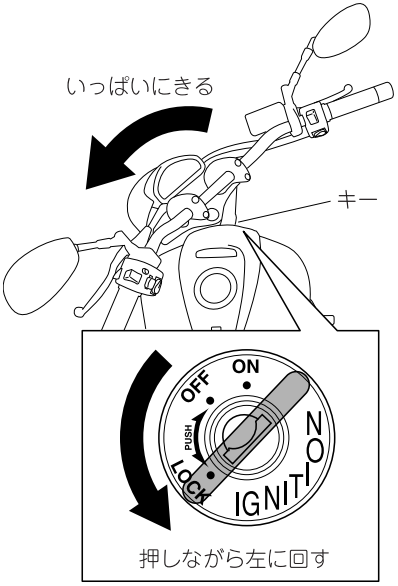
ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。

＜外しかた＞

キーを差し込み、押しながら**OFF**まで回します。

アドバイス

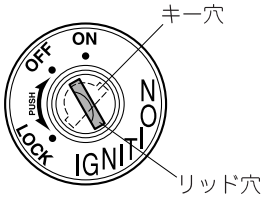
走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。



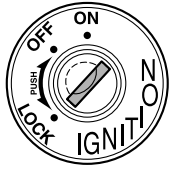
ハンドルロックのかけかた

アドバイス

- **メインスイッチのキー穴をカバーするリッドを設けています。ハンドルロックの後に、リッド位置をずらしておいてください。**



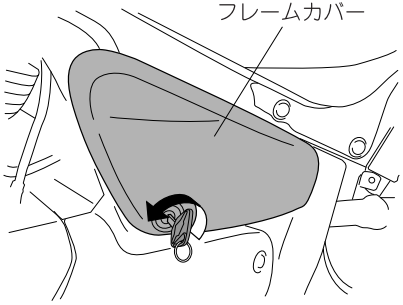
- **キーを差すときは、リッド穴をキー穴に合わせてください。**



シート

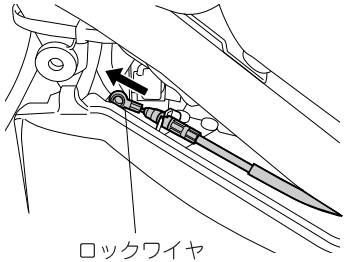
＜取外し＞

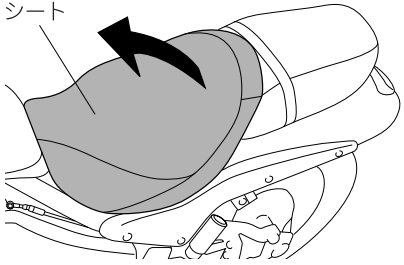
1. フレームカバーのロックにキーを差し込み、左に回します。



2. フレームカバーを手前に引いて外します。

3. ロックワイヤを引張って、シートを外します。





アドバイス

この車は、縫製シートを採用しています。雨天や洗車時に縫い目から水が入ることがありますのでご注意ください。

ヘルメットホルダ

ヘルメットの盗難抑止のため、ヘルメットホルダを使いましょう。

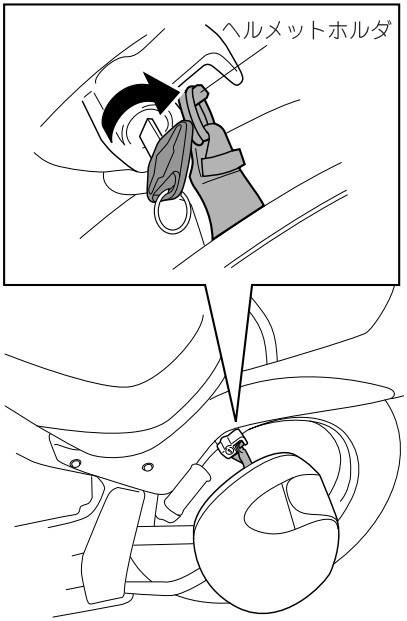
1. キーを差し込み、右に回してヘルメットホルダを開きます。
2. ヘルメットホルダにヘルメットの金具をかけます。
3. キーを左に回してヘルメットホルダを閉じ、キーを抜きます。

⚠警 告

ヘルメットホルダにヘルメットをつけたまま走行しないでください。運転の妨げになります。またヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

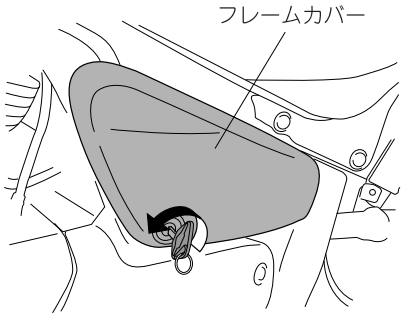
アドバイス

ヘルメットによっては、ヘルメットの形状やあごひもの長さにより、ヘルメットホルダに取り付けできないことがあります。



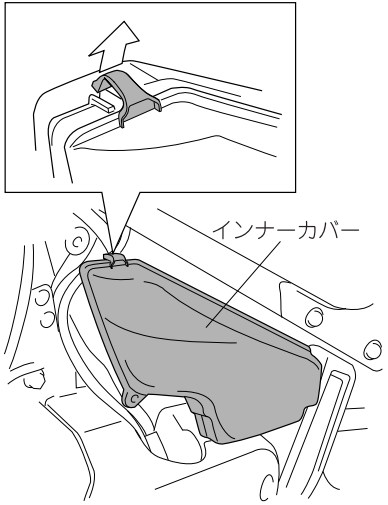
小物入れ（書類入れ、サービス工具）

1. フレームカバーのロックにキーを差し込み、左に回します。

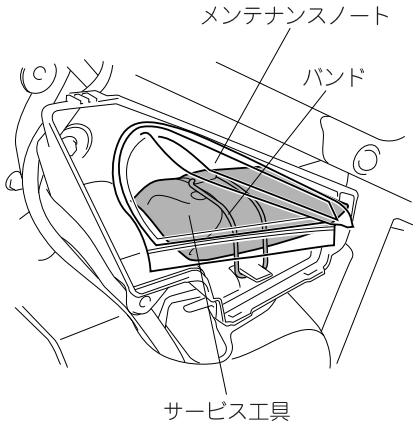


小物入れ（書類入れ、サービス工具）

2. フレームカバーを手前に引いて外します。
3. インナーカバーを外します。



- メンテナンスノートはビニール袋に入れてここに保管してください。
- サービス工具は、袋に入れバンドで固定してください。

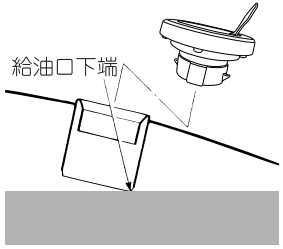


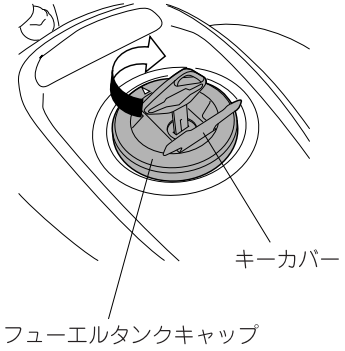
アドバイス

洗車時などに水が入る場合があります。大切なものを入れる場合はご注意ください。

ガソリンの給油

1. サイドスタンドを立てます。
2. フューエルタンクキャップのキーカバーを開けます。
3. キーを差し込み、右に回してロックを解除します。
4. キャップを外します。
5. ガソリンを給油口の下端まで入れます。
   指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
6. △マークを前にしてキャップを押し下げ、キーを左へ回して抜きます。キャップがロックされないとキーは抜けません。





⚠警 告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- **ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。**
- **給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。**
- **ガソリンは給油口下端より上に入れないでください。キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**
- **こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。**

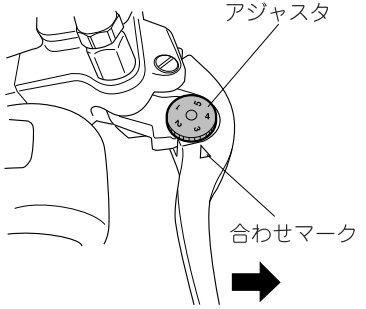
注 記

必ず無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他アルコール系の燃料、軽油などは、エンジンや燃料系統を損傷する原因となります。

ブレーキレバー

ブレーキレバーとグリップとの間隔が調整できます。

- ブレーキレバーを前方に押し、アジャスタを回します。
- アジャスタの数字を合わせマークにしっかりと合わせます。



1	2	標準3	4	5
⬅ 広い				狭い ⇨

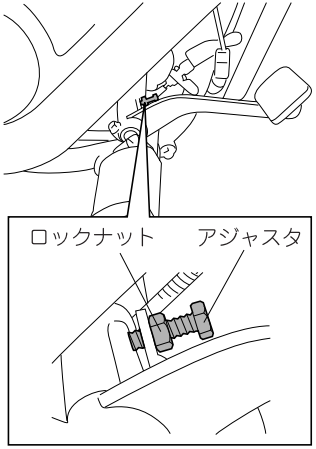
⚠警 告

走行中は調整を行わないでください。思わぬ事故につながることがあります。調整は停車中に行ってください。

ブレーキペダル

ブレーキペダルの位置が調整できます。

- ロックナットをゆるめ、アジャスタを回します。
  右に回すと低く、左に回すと高くなります。



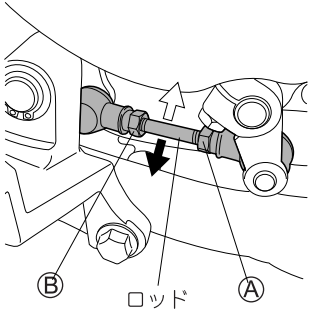
アドバイス

調整後、必ずブレーキペダルの遊びを点検してください。

チェンジペダル

チェンジペダルの位置が調整できます。

- ロックナットⒶ、Ⓑをゆるめ、ロッドを回します。
- ロッドを手前（⬇）に回すとペダル位置が低く、反対（⇧）に回すと高くなります。



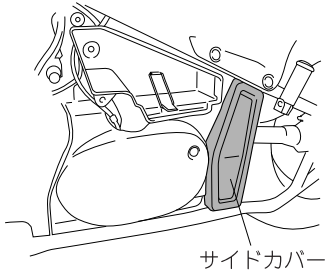
アドバイス

- **調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。**
- **ロックナットⒷは左ねじです。ゆるめるときは右に回し、取り付けるときは左に回します。（ロックナットⒶは右ねじです。）**

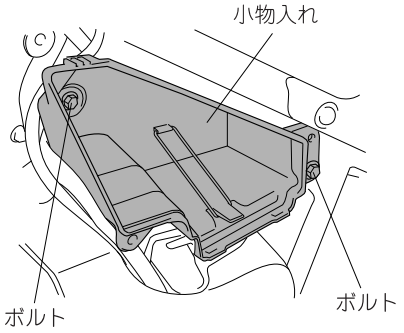
リヤショックアブソーバ

■ スプリングの強さ

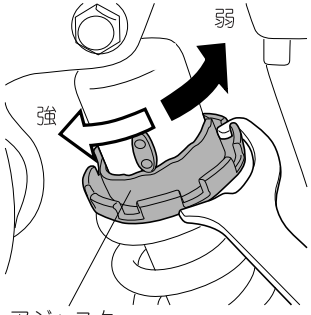
1. フレームカバー、インナーカバーを外します。
2. サイドカバーを手前に引いて外します。

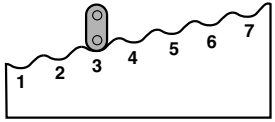


3. 小物入れを外します。



4. 工具でアジャスタを回します。





1	2	標準3	4	5	6	7
⬅ 弱い					強い ⇨	

⚠警 告

リヤショックアブソーバには、高圧の窒素ガスが封入されています。

- **火の中に入れたり、高熱にさらしたり、分解したりすると、爆発や破裂が起こるおそれがあります。**
- **廃棄するときは、スズキ販売店へご相談ください。**

アドバイス

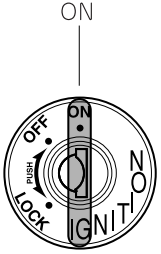
アジャスタの調整用工具は、スズキ純正オプション工具（09822-00003）または市販の工具をご使用ください。

正しい運転操作

エンジンのかけかた

■ エンジンをかける前に

1. エンジンストップスイッチが🔄になっていることを確認します。
2. メインスイッチを**ON**にします。
3. ニュートラルインジケータの点灯を確認します。点灯しないときは、チェンジペダルを操作して**ニュートラル**にします。
4. FI警告灯の消灯を確認します。



⚠警 告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

アドバイス

- **エンジン始動時の飛び出しを防ぐため、クラッチスイッチを設けています。クラッチレバーを握らないとエンジンがかかりません。**
- **メインスイッチをONにすると約3秒間FIの作動音がしますが異常ではありません。**
- **スタータスイッチを押している間は、ヘッドランプが消灯します。**

＜サイドスタンドインタロック＞

- サイドスタンドの外し忘れ防止装置です。
- サイドスタンドが出ているときは、チェンジ位置**ニュートラル**でのみエンジンがかかります。
  または**ニュートラル**以外のとき、サイドスタンドを出すとエンジンが停止します。

チェンジ ＼ サイドスタンド	出ている	外している
ニュートラル	◎	◎
ニュートラル以外	×	○

◎：始動可　○：始動･走行可　×：始動･走行不可

⚠警 告

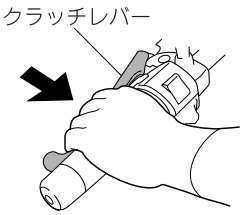
走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

アドバイス

- **サイドスタンドを完全に外していないとき、チェンジを操作するとエンジンが停止します。**
- **サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、注油してください。**

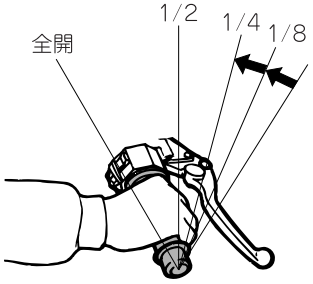
■ エンジンのかけかた

1. クラッチレバーを握ります。



2. スロットルグリップは回さずに、スタータスイッチを押します。

- 2～3回スタータスイッチを押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8～1/4ほど回し、スタータスイッチを押します。



3. エンジンがかかったら、スタータスイッチ、クラッチレバーから手を放し、回転がスムーズになるまでエンジンを暖めます。

注 記

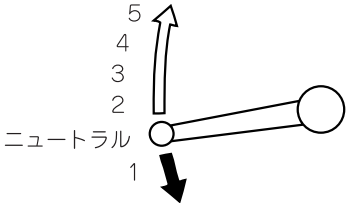
バッテリ充電などのために、長時間のアイドリングはしないでください。
オーバーヒートなどによる不具合の原因となります。

アドバイス

- **スタータスイッチを押して 5 秒以内にかからないときは、バッテリ電圧を回復させるため、メインスイッチを一旦OFFにして、10秒くらい休んでください。**
- **エンジンがかかったら、スタータスイッチ、スロットルグリップを戻してください。**
- **長期間エンジンをかけなかったときや、ガス欠をし、ガソリンを給油したときは、エンジンがかかりにくいことがあります。このようなときはスロットルグリップを回さないでスタータスイッチを通常より多く使ってください。**
- **不必要な空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。**
- **転倒した場合は、自動的にエンジンが停止するシステムが作動し、同時にFIランプが点灯します。エンジンを再始動するには、車両を起こしたあと、メインスイッチを一旦OFFにして、再びONにしてください。FIランプが消灯すると、エンジンの再始動が可能になります。FIランプが点灯したままスタータスイッチを押し続けないでください。バッテリ上がりの原因となります。**

走りかた

1. サイドスタンドを外します。
2. クラッチレバーを握り、チェンジペダルを操作してギヤを1速に入れ、静かに発進します。
3. 車のスピードに応じてギヤを切り換えます。ギヤチェンジは5段リターン式です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行ないます。チェンジ操作は、つま先で軽く行ない、ペダルにコツンと感じるまで確実に行なってください。



ギヤ	適応速度（km/h）
1速	0 ～ 40
2速	15 ～ 60
3速	30 ～ 80
4速	40 ～
5速	45 ～

⚠警 告

走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

注 記

- **無理なチェンジ操作をしたり、チェンジペダルに足を乗せたまま走行すると、チェンジ機構の損傷の原因となります。**
- **エンジンが異常な高温になると、クラッチの切れが悪くなることがあります。安全な場所で、エンジンを停止して冷やしてください。**

アドバイス

- **チェンジ操作はコツンと感じるまで確実に行ってください。**
- **むやみにエンジンの回転を上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。**
- **スピードは控えめにしましょう。**
- **走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。**

「感情的な走りはいけません
心のブレーキを忘れずに！」

＜シフトダウン＞

追越しをするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンすると加速力が得られます。

⚠警 告

あまり高い回転数でシフトダウンを行うと、エンジン回転が上がりすぎてエンジン、ミッションが故障したり、走行安定性を失い、尻振りなどの原因となります。

＜ならし運転＞

ならし運転を行うと、お車の寿命を延ばします。

- 最初の 1,000km を走行するまでは、スロットル開度1/2以下で走行してください。
- 新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。
  倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。
- 不必要な空ふかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ブレーキの使いかた

ブレーキは前後同時に使い、エンジンブレーキを併用します。

＜エンジンブレーキ＞

スロットルグリップを戻すことによってエンジンブレーキがはたらきます。さらに強力なエンジンブレーキを必要とするときは、5速→4速…とシフトダウンします。

⚠警 告

- **急激なシフトダウンは走行安定性を失い、尻振りの原因となる事があります。速度に合わせたギヤを選んでください。**
- **フロントブレーキまたはリヤブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。**
- **濡れた路面や雪道、凍った路面は、乾いた路面より制動距離が長くなります。早めにブレーキをかけてください。**
- **長い下り坂などでは、エンジンブレーキを併用し、連続的なブレーキ操作は避けてください。ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。**
- **不必要な急ブレーキは避けましょう。急ブレーキは横すべりや転倒の原因となります。**

アドバイス

- **濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードをおとして余裕をもったブレーキ操作をしましょう。**
- **洗車後や水たまりを走行した後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。**

お車の点検

日常点検、定期点検

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐため、道路運送車両法で日常点検と定期点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

＜日常点検＞

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
この車に適用される日常点検の項目は次のページをご覧ください。

＜定期点検＞

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

⚠警 告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因となることがあります。

アドバイス

- **お車を使用しないときも定期点検は実施してください。**
- **お車を長期間休ませた後に使い始めるときは入念に点検することが大切です。**

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検内容など、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”“定期点検の解説”をご覧ください。
- 初期（1か月）点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

＜継続検査（車検）＞

小型自動車（251cm^{3}以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。期間満了前に必ずお受けください。

⚠警 告

点検は、安全に十分注意してください。

- **平坦な足場のしっかりした場所で、サイドスタンドを立ててください。**
- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中や風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。**
- **点検、整備を行うときは火気厳禁です。**
- **走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。**
- **異常が認められたときは、ご自身またはスズキ販売店で確実に整備してからお乗りください。**

日常点検項目

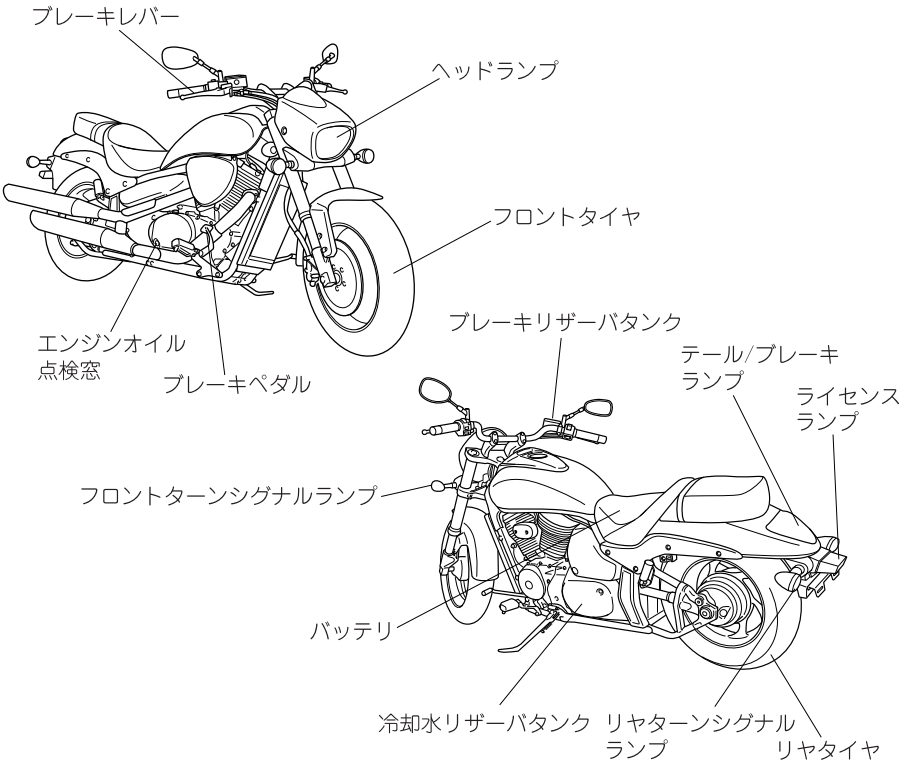
ブレーキ
- ブレーキレバー、ブレーキペダルの遊び
- きき具合
- ブレーキ液の量

タイヤ
- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

エンジン
- 冷却水の量
- エンジンオイルの量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

灯火装置、方向指示器（ランプ類）
運行において異常が認められた箇所

＜日常点検・部品配置＞



簡単な整備

ここでは、通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

⚠警 告

- **整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。**
- **平坦な足場のしっかりした場所で、サイドスタンドを立ててください。**
- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **点検、整備を行うときは火気厳禁です。**

注 記

- **整備はエンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。**
- **適切な工具を使用しましょう。**
- **スイッチにグリスを塗ったり、油を注したりしないでください。故障の原因となります。**

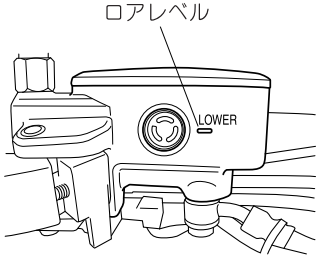
アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキ液の量の点検

平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベルより上にあるかを点検します。
液面がロアレベル以下の場合は、ブレーキパッドの摩耗点検を行ってください。



車両前方から見たところ

⚠警 告

ブレーキ液は安全のため2年毎の交換をしてください。

指定ブレーキ液：
スズキブレーキフルードDOT4
（JIS BF-4）

⚠警 告

- **ブレーキ液の減りが著しいときはブレーキ系統の液漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。**
- **ブレーキ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。**

注 記

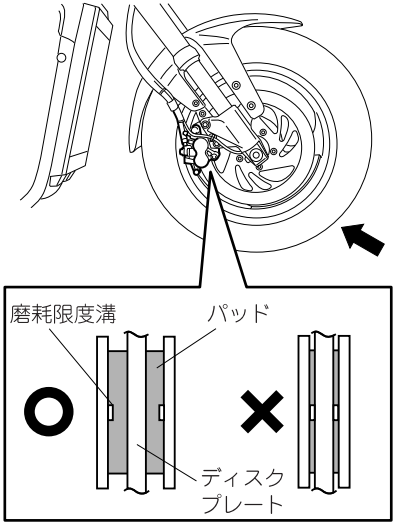
- **化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。**
- **リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう十分注意してください。**
- **ブレーキ液の入れ過ぎに注意してください。あふれ出るおそれがあります。**

アドバイス

- **ブレーキ液は塗装面やプラスチックおよびゴム類を損傷させます。付着したら、すぐにふき取ってください。**
- **ブレーキ液面はブレーキパッドの摩耗と共に、下がっていきます。**

■ ブレーキパッドの摩耗の点検

ブレーキキャリパをのぞいて、パッドの摩耗を点検します。
摩耗限度溝がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約1mmになったら）、パッドを交換してください。



⚠警 告

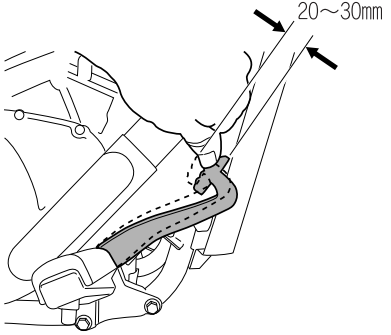
ブレーキパッド交換後、ブレーキレバーまたはブレーキペダルを、正規のタッチになるまで、数回ストロークしてください。

アドバイス

- **ブレーキパッドは左右同時に交換してください。**
- **新しいブレーキパッドは、きき具合が違います。慎重な運転を心がけてください。**
- **ブレーキパッドの交換は、スズキ販売店にご相談ください。**

■ ブレーキペダルの遊びの点検

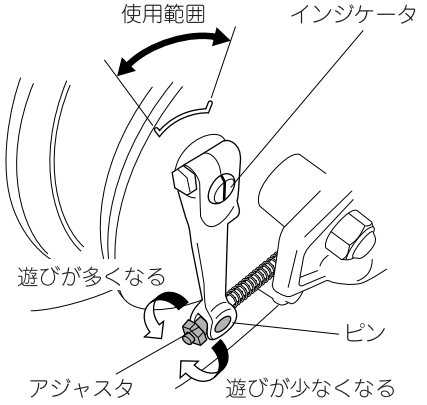
軽い抵抗を感じるまでブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。
規定の範囲から外れている場合は調整してください。



ブレーキ

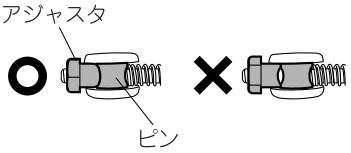
■ ブレーキペダルの遊びの調整

ブレーキカムレバー部のアジャスタにより、遊びを調整します。
アジャスタを右に回すと遊びが少なく、左に回すと遊びが多くなります。



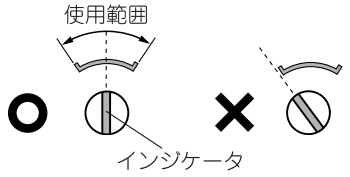
アドバイス

アジャスタ凹部をピンに合わせてください。適切に合っていない場合、走行中にブレーキの遊びが変化することがあります。



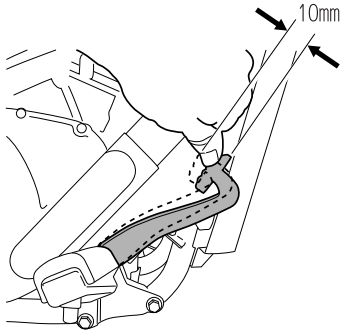
アドバイス

- **調整後、遊びが規定の範囲内にあるかを確認してください。**
- **ブレーキペダルをいっぱいに踏んだときにインジケータの延長線が使用範囲から外れる場合は、ブレーキシューの使用限度です。**



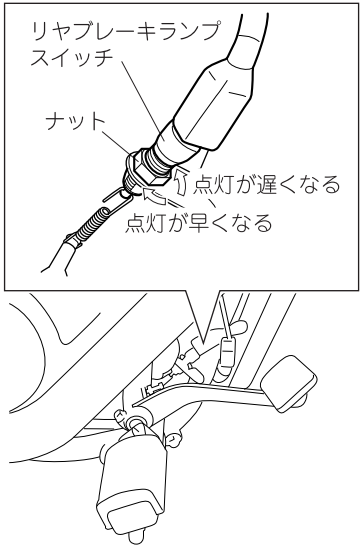
■ リヤブレーキランプスイッチの点検

リヤブレーキペダルを10mm程度踏み込んだときに、ブレーキランプが点灯を始めるか点検します。
点灯の開始が早い場合や遅い場合は、リヤブレーキランプスイッチを調整してください。



■ リヤブレーキランプスイッチの調整

リヤブレーキランプスイッチ本体が回らないように指で固定し、ナットを回して調整します。
ナットを左に回すとブレーキランプの点灯開始が早くなり、右に回すと遅くなります。



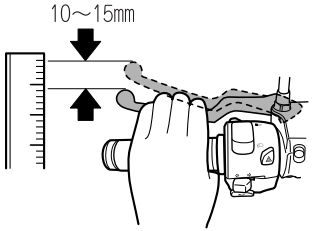
注 記

調整をするときにリヤブレーキランプスイッチ本体を回さないでください。配線の断線の原因となることがあります。

クラッチ

■ クラッチレバーの遊びの点検

軽い抵抗を感じるまでクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。規定の範囲から外れている場合は調整してください。

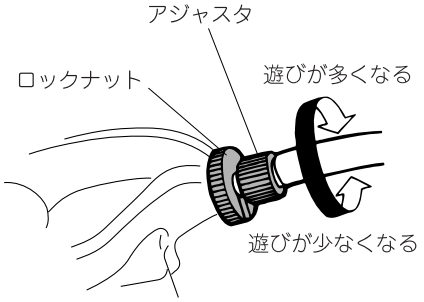


クラッチ

■ クラッチレバーの遊びの調整

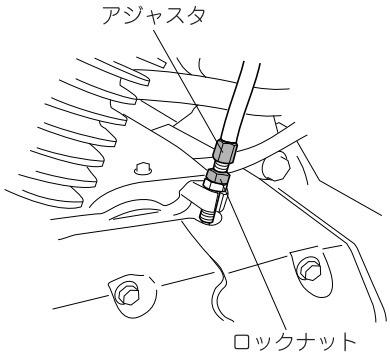
<クラッチレバー部（微調整）>

ロックナットをゆるめ、アジャスタを回し遊びを調整します。
アジャスタを右へ回すと遊びが多く、左へ回すと遊びが少なくなります。



<エンジン部（主調整）>

ロックナットをゆるめ、アジャスタを回し遊びを調整します。
アジャスタを右に回すと遊びが多く、左に回すと遊びが少なくなります。

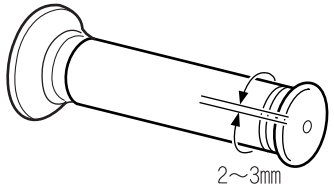


アドバイス

- **調整後、クラッチレバーの遊びが規定の範囲内にあるか確認してください。**
- **調整後、エンジンをかけチェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出しなどがないか確認してください。**

スロットルケーブル

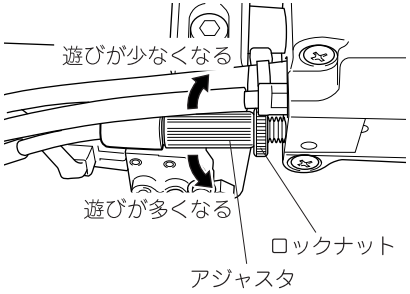
■ スロットルケーブルの遊びの点検



スロットルグリップを操作し、スロットルケーブルの遊びの量が、2～3mmの範囲内にあるかを確認します。遊びの量が範囲から外れている場合は、調整してください。

■ スロットルケーブルの遊びの調整

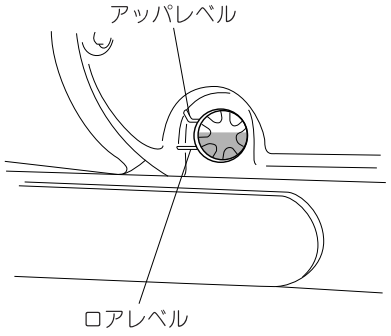
アジャスタにより遊びを調整します。
ロックナットをゆるめます。アジャスタを右に回すと遊びが少なく、左に回すと遊びが多くなります。



エンジンオイル

■ エンジンオイル量の点検

1. 平坦地でエンジンを2～3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 車体を垂直にして、2～3分後オイルが点検窓のアッパレベルとロアレベルの間にあるかを点検します。
   オイル量がロアレベルに近い場合は、アッパレベルまで補給します。

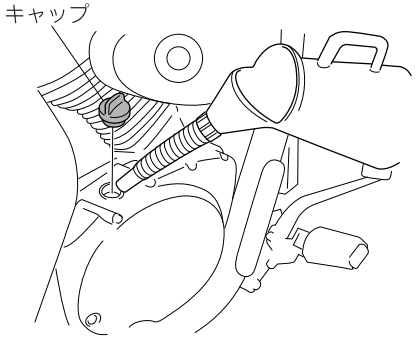


⚠注 意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

■ エンジンオイルの補給

1. 平坦地でエンジンを2～3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 2～3分後、オイル注入口キャップを外します。
3. 車体を垂直にして、アッパレベルまでオイルを補給します。
4. キャップを確実に取り付けます。



エンジンオイル

推奨オイル：スズキ純正オイル

規格 / オイル	SAE	API
エクスターオイル TYPE 04 MA	10W-40	SJ
エクスターオイル スーパーデラックス	10W-40	SE

推奨オイルが入手できない場合は、次の規格を満足するエンジンオイルを使用してください。

SAE	API	JASO
10W-40	SG以上	MA

エンジンオイル交換時期：
初回1か月または1,000km
以降6,000kmまたは1年ごと
オイルフィルタ交換時期：
初回1か月または1,000km
以降18,000kmごと

⚠警 告

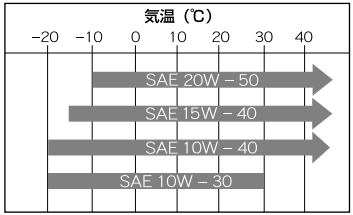
エンジンオイルを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

注 記

- **摩擦低減剤を必要以上に多く含むエンジンオイルは使用しないでください。また摩擦を低減する添加物は加えないでください。クラッチは、エンジンオイルに浸されています。摩擦低減剤を含むエンジンオイルはクラッチのすべりなどの原因となる場合があります。**
- **銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因となることがあります。**
- **オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。**

アドバイス

- **SAE10W-40 のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。**

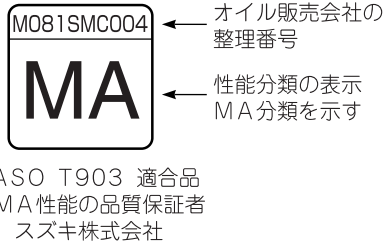


- **オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。**
- **オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。**

アドバイス

JASO規格について

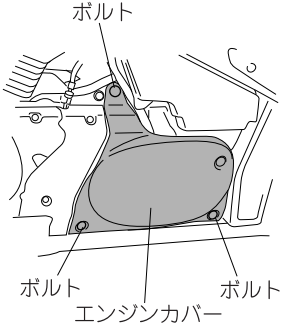
- **JASO T903は、4サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。**
- **二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。**
- **MAとMBの分類があり、本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。**



冷却水

■ 冷却水の量の点検

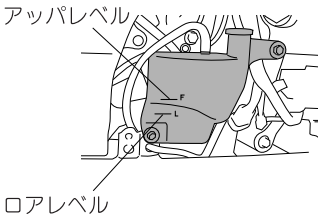
1. フレームカバーを外します。
2. エンジンカバーを外します。



3. 平坦地で車体を垂直にして、冷却水がリザーバタンクのアッパレベルとロアレベルの間にあるかを点検します。冷却水がロアレベルに近い場合は、アッパレベルまで補給します。

アドバイス

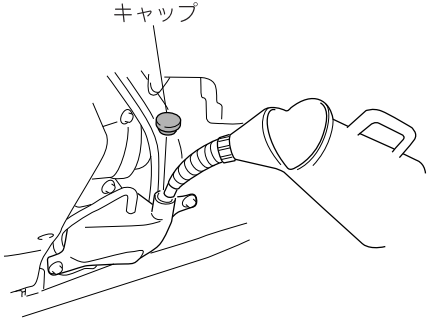
冷却水の量の点検は、エンジンが冷えたときに行ないます。



冷却水

■ 冷却水の補給

1. リザーバタンクキャップを外します。
2. アッパレベルまで冷却水を補給します。
   指定液：スズキスーパーロングライフクーラントまたはスズキクーラント



⚠警 告

冷却水は、人体に有害です。冷却水を取り扱うときは、十分注意してください。

- **冷却水を補給するときは、換気のよい場所で行なってください。**
- **飲んだ場合は、無理に吐かずに、すみやかに医師の診察を受けてください。**
- **目に入った場合は、きれいな流水で十分に洗ったあと、医師の診察を受けてください。**
- **皮膚や衣服に付いた場合は、水と石鹸を使って洗い落としてください。**

⚠警 告

- **クーラントを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。**
- **冷却水の補給はリザーバタンクキャップから行い、ラジエータキャップは外さないでください。**
- **エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、やけどを負うおそれがあります。**

アドバイス

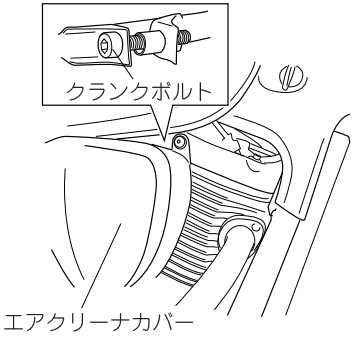
- **冷却水の減りが著しいときはラジエータ本体、ホースなどからの漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。**
- **リザーバタンクが空の場合は、ラジエータ内の冷却水も不足している可能性があります。**
- **補給する水は水道水を使用し、井戸水や天然水は使用しないでください。**
- **冷却水の交換はスズキ販売店にご相談ください。**
- **冷却水交換時はスズキクーラントと水道水を1：1で混合したものを使用してください。**
- **スズキスーパーロングライフクーラントは水で希釈する必要はありません。**

エアクリーナ

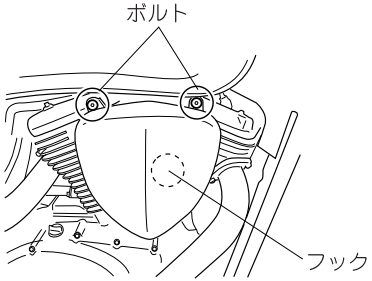
■ エアクリーナエレメントの点検

1年毎に点検してください。
ほこりが多い場所を走行する機会が多い場合は、6か月毎に点検してください。

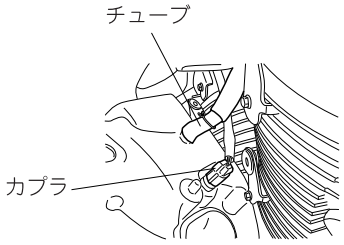
1. クランクボルトをゆるめ、エアクリーナカバーを外します。



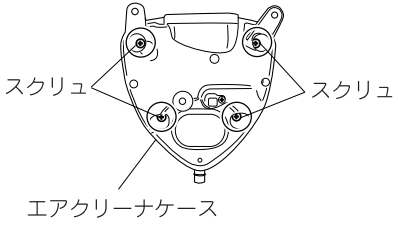
2. エアクリーナを取り出します。



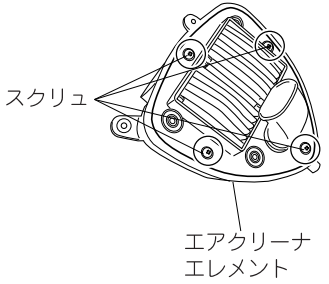
3. チューブとカプラを外します。



4. エアクリーナケースを外します。



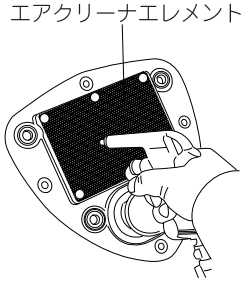
5. エアクリーナエレメントを取り出し、目視により点検します。汚れ、詰まりがある場合は清掃します。



エアクリーナ

■ エアクリーナエレメントの清掃

1. エアクリーナエレメントを軽くたたくか、エアを外側（金網側）より内側に向けて吹きつけ、ゴミやほこりを落とします。
2. エアクリーナエレメントを取り付けます。



注 記

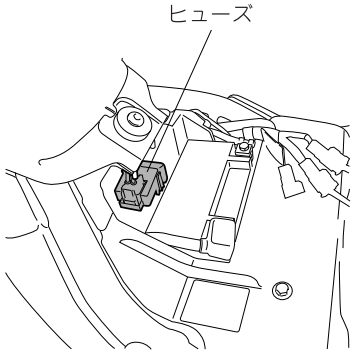
- **エアクリーナエレメントが破損しているときは交換してください。**
- **エアクリーナエレメントおよびエアクリーナキャップの取り付けが不完全な場合、ゴミやほこりを吸入しエンジンに悪影響を与えます。**
- **洗車時、エアクリーナエレメントに水がかからないようにしてください。また、エアクリーナボックス内に水が入らないようにしてください。**

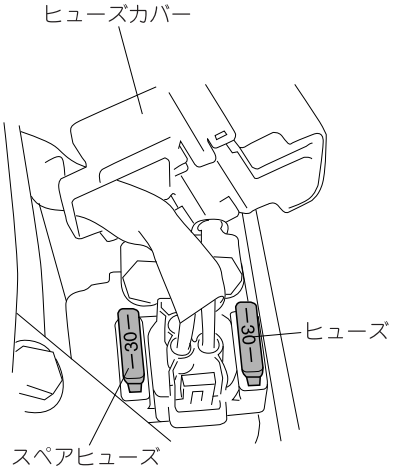
ヒューズ

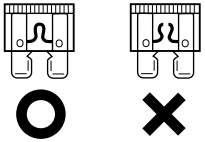
■ ヒューズの点検

<メインヒューズ>

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. シートを外します。
3. ヒューズカバーを外します。
4. ヒューズを引き出し、点検します。
   切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

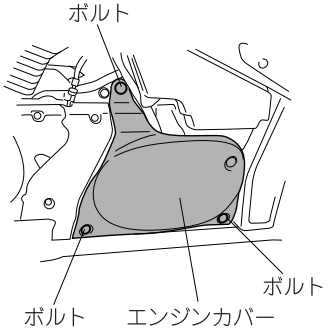




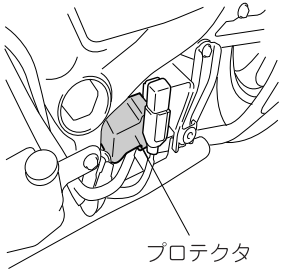


<ヒューズ>

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. フレームカバーを外します。
3. エンジンカバーを外します。

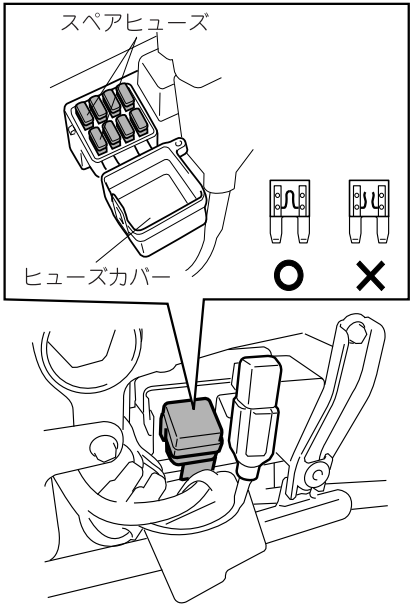


4. プロテクタを外します。



5. ヒューズカバーを開け、ヒューズを引き出して点検します。
6. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

ヒューズ



⚠警 告

指定容量を超えるヒューズは、配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

注 記

- **電装品類（ランプ、計器など）を取り付けるときは、スズキ純正用品をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時、ヒューズのまわりに水を強く吹きつけることは避けてください。**

アドバイス

ヒューズが切れたときは原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

バッテリ

■ バッテリの点検

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリを使用しています。バッテリ液の点検、補給は必要ありません。
ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、取り外して清掃してください。

⚠警 告

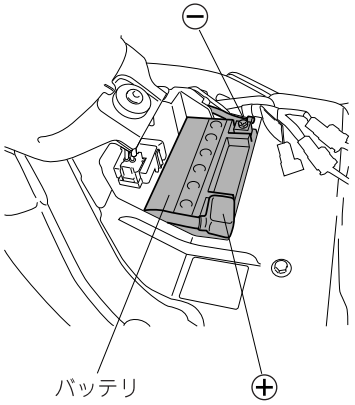
- **バッテリを取り扱う前に、バッテリに貼付されている注意文をよく読んでください。**
- **バッテリには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると重いやけどを負うおそれがあります。**
- **バッテリは引火性ガスを発生します。火気を近づけないでください。**
- **バッテリは、子供の手の届くところに置かないでください。**
- **乾いた布でバッテリをふかないでください。静電気が発生して引火するおそれがあります。**

＜バッテリ液が付着した場合は・・・＞

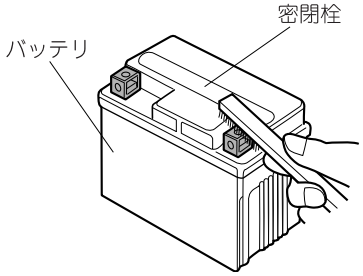
- 目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。
- 万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。

■ バッテリターミナル部の清掃

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. シートを外します。
3. (－)側バッテリコード、(+)側バッテリコードの順に外し、バッテリを取り出します。



4. ターミナル部に白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いでふきます。腐食が著しいときは、ワイヤブラシかサンドペーパで磨いてください。
5. 清掃後、ターミナル部にグリスを薄く塗り、バッテリを取り付けます。



バッテリ

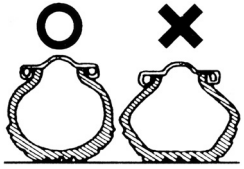
アドバイス

- バッテリコードを外すときは、必ずメインスイッチをOFFにし、(ー)側を先に外してください。取り付けるときは(+)側を先に取り付けます。
- ターミナル部にゆるみが生じないように締め付け、(+)側ターミナルカバーを確実に取り付けてください。
- 密閉栓は取り外さないでください。
- バッテリを交換するときは、同一型式のメンテナンスフリーバッテリと交換してください。
- 長期間使用しない場合は、3か月ごとに補充電してください。詳細はP.54のアドバイスをご覧ください。

タイヤ

■ 空気圧の点検

タイヤ接地部のたわみ状態を見て、空気圧が不足していないかを点検します。
たわみ状態が異常な場合は、タイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して空気圧を点検し、適切な空気圧にしてください。



タイヤ空気圧

1人乗車時	前	200kPa
	後	250kPa
2人乗車時	前	200kPa
	後	250kPa

⚠警 告

不適正な空気圧での使用や、すり減ったタイヤの使用は、転倒事故などの原因となります。適正な空気圧を守り、すり減ったなら交換してください。

■ 亀裂、損傷、異物の点検

タイヤの接地面および側面の全周に、亀裂や損傷がないかを確認します。
また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。



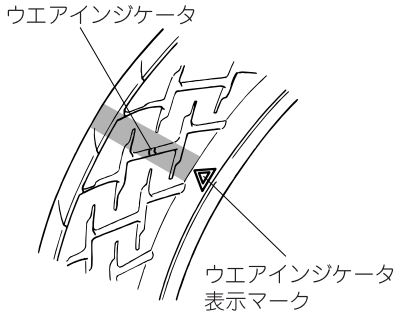
■ 異常磨耗の点検

タイヤの接地面が、異常に磨耗していないかを確認します。異常に磨耗している場合は、スズキ販売店へご相談ください。



■ 溝の深さの点検

ウエアインジケータがあらわれていないかを点検します。
ウエアインジケータがあらわれたときは、タイヤを交換してください。



アドバイス

コーナリングや操縦安定性などの安全走行のために、早めのタイヤ交換をおすすめします。溝の深さは、前1.6mm、後2.0mm以上が望ましいです。

タイヤ

■ タイヤの交換

タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	サイズ	130/90—16 M/C 67H
	種類	IRC : GS-23F A
後	サイズ	170/80—15 M/C 77H
	種類	IRC : GS-23R A

⚠警 告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。必ず指定タイヤを取り付けてください。

アドバイス

新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

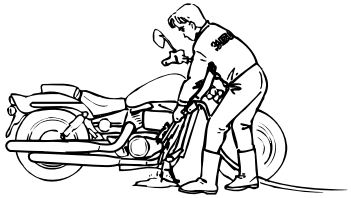
メ モ

お車の手入れ

洗車

お車を長持ちさせるため、常に清掃をしましょう。泥道やホコリの多いところを走行した後は、すみずみまで洗車しましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。海水に含まれる塩分や融雪剤は金属をサビやすくします。海岸付近や融雪剤を使用した道路を走行した後は、必ず洗車してください。

1. 冷水をかけながら、スポンジまたはやわらかい布で汚れを落とします。
2. ひどい汚れは、中性洗剤を使用して水で洗い流します。
3. 乾いたやわらかい布で、水分をふき取ります。



注 記

- 洗車はエンジンが冷えているときに行ってください。
- 高圧洗車機やスチーム洗車機は使用しないでください。可動部や電装部品の作動不良や故障の原因となる事があります。
- 洗車時、マフラ、エアクリーナや電装品に水が入らないよう注意してください。水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。
- ラジエータに高圧の水をかけないでください。冷却フィンが損傷するおそれがあります。
- 洗車後はブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。この場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり、流したりしないでください。

- メインスイッチ
- スパークプラグ
- フューエルタンクキャップ
- フューエルインジェクションシステム
- ブレーキマスターシリンダ
- スロットルケーブルのブーツ

アドバイス

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 洗車後や雨天走行後にヘッドライトのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドライトを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリ上がりを防ぐために、エンジンを掛けながらヘッドライトを点灯させてください。
- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- 使用中の摩擦や表面を擦り過ぎたり強く磨くと、つや消し表面が変化することがあります。

アルミホイール

アルミホイールは、塩分などの汚れを嫌います。アルミホイールの美しさを保つため、定期的に（週に一度くらい）清掃しましょう。

1. 中性洗剤をスポンジに含ませて、汚れを落とします。
2. 十分に水洗いをして、乾いた布で水分をふき取ります。

アドバイス

● アルミホイールは、傷がつきやすいため、みがき粉、硬いブラシや金属タワシなどの硬いものでこすったり、当てたりしないでください。

● 海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

エキゾーストパイプ

ステンレス鋼のエキゾーストパイプは、油脂などの汚れにより焼けむらが生じることがあります。

- 汚れは、ステンレス用の台所洗剤を使って、布かスポンジで洗浄ののち、十分に水洗いし乾いた布で水分をふき取ります。
- 焼けむらが生じた場合は、細目のコンパウンドで磨いてから、汚れを落とします。

⚠注 意

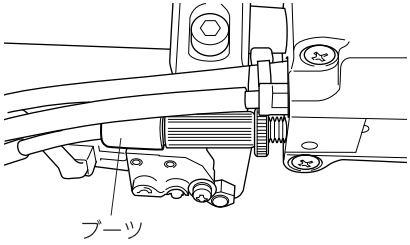
エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

アドバイス

排気熱によってエキゾーストパイプは変色しますが、機能上問題はありません。

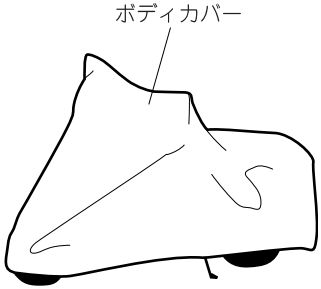
スロットルケーブルブーツ

スロットルケーブルには、ブーツが取り付けられています。ブーツが確実に取り付けられていることを確認してください。洗車時には、ブーツに直接水をかけないようにしてください。ブーツが汚れている場合は、水でぬらした布でふき取ってください。



保管のしかた

できるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外の場合は、ボディカバーをかけるようにしてください。



アドバイス

ボディカバーは、エンジンやマフラが冷えてからかけてください。

アドバイス

長期間乗らない場合は、次の事項をお守りください。

- **保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し、完全補充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は(－)ターミナルを外してください。**

※補充電については、スズキ販売店にご相談ください。

環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリ、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

◆ 廃棄二輪取扱店とは

廃棄二輪取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪取扱店の証

◆ 二輪車リサイクルマークとリサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。



◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。
リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、下記のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。
（財）自動車リサイクル促進センター
ホームページ：http://www.jarc.or.jp/
二輪車コールセンター
電話番号：03-3598-8075
受付時間：9時30分～17時00分
（土日、祝日、年末年始等を除く）

サービスデータ

主要諸元

項目		諸元
型式		EBL-VK57A
長さ		2,420mm
幅		890mm
高さ		1,105mm
軸距		1,655mm
最低地上高		140mm
車両重量		267kg
乗車定員		2人
タイヤサイズ	前	130/90-16 M/C 67H
	後	170/80-15 M/C 77H
最小回転半径		3.0m
エンジン形式		4サイクル・2気筒
冷却方式		水冷
燃料供給方式		フューエルインジェクション
総排気量		399cm^3
内径×行程		65.0×60.2mm
圧縮比		10.5
アイドリング回転速度		1,200rpm
最高出力		24kW/8,000rpm
最大トルク		33N·m/6,000rpm

項目		諸元
クラッチ形式		湿式·多板·コイルスプリング式
トランスミッション		常時噛合式5段リターン
減速比	1次	2.138
	2次	1.000/1.133/3.090
変速比	1速	2.461
	2速	1.631
	3速	1.227
	4速	1.000
	5速	0.814
キャスタ		33° 20'
トレール		141mm
ブレーキ形式	前	シングルディスク
	後	リーディングトレーリング
フューエルタンク容量		15L
点火方式		フルトランジスタ式 バッテリ点火
点火時期		3° BTDC/1,200rpm

サービスデータ

項　　目	調　整　値
ブレーキペダルの遊び	20～30mm
クラッチレバーの遊び	10～15mm

タイヤ空気圧	1人乗車時	前	200kPa
		後	250kPa
	2人乗車時	前	200kPa
		後	250kPa

エンジンオイル量	オイル交換時	3.0L
	オイルフィルタ交換時	3.4L
	全　容　量	3.7L

スパークプラグ	種類	NGK	DPR7EA-9
		DENSO	X22EPR-U9
	ギャップ		0.8～0.9mm

バッテリ	種　　類	FTX12-BS
	容　　量	12V—10Ah

ランプ	ヘッドランプ　H/L		12V 60/55W
	ストップ／テール		12V 5.4/0.6W（LED）
	ターンシグナル	前	12V 21/5W
		後	12V 21W
	ライセンスランプ		12V 1.5W

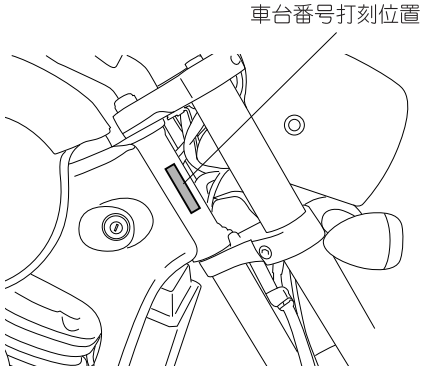
ヒューズ	10A, 15A, 30A

車台番号

アフターサービスなどを的確に行うため、お車の車台番号を記入しておいてください。

機　　種	ブルバード400
車台番号	VK57A

車台番号はフレームヘッドパイプ右側に打刻してあります。



メ　モ

メ モ

メ　モ

お車やサービスなどについてのご相談、ご意見がございましたら、お買いあげのスズキ販売店またはメンテナンスノート巻末に記載されている、お近くのスズキ二輪代理店にお申しつけください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認のうえ、ご相談ください。

① 機種、型式、車台番号
② 購入年月日　④ 相談事項
③ 走行距離　⑤ ご住所、お名前、電話番号

お買いあげの販売店

[TEL]

スズキ株式会社の窓口は…
〒432-8611　浜松市南区高塚町300

スズキ株式会社

お客様相談室
◆ フリーダイヤル　0120-402253
受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00

弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いにつきましては、スズキ株式会社のホームページに掲載していますのでご覧ください。
(http://www.suzuki.co.jp)

こんなときは、スズキ販売店に持ち込む前に次のことを調べてみてください。

エンジンがかからない
- かけかたは取扱説明書どおりですか
- ガソリンは入っていますか

ブレーキがきかない
- ディスクブレーキはブレーキパッドの磨耗、ドラムブレーキはブレーキレバーの遊びを点検してください

ランプ類が点灯しない
- ヒューズが切れていないかを点検してください

再生紙、植物油インクを使用しています。